

## 2-2 取組実践までのながれ

管理指導表に基づいて、個々の児童生徒に対する取組実践までのながれ（例）を提示します。例を参考に、教育委員会・学校の実情に合わせて取組実践を進めるようにしましょう。

アレルギー疾患を有する児童生徒の多くは、乳幼児期に発症し、就学前には診断され家庭での配慮や管理がすでに行われているため、就学時の健康診断や入学説明会などの機会に、アレルギーの状態についてしっかり把握しましょう。

なお、在学中に新たな発症があった場合や、配慮や管理が必要となった場合、状況に応じて適切に対応するようにしましょう。

### 取組実践までのながれ（例：小学生の場合）



## 個別支援プランとは

「個別支援プラン」とは、学校での取組を進めるための基礎となります。アレルギー疾患の児童生徒の健康管理や緊急時の対応について、全教職員で共通理解を図るため、アレルギー対応委員会で個別支援プランを作成するようにしましょう。

### ◆ 対象者

- ・保護者から学校に「学校生活管理指導表」「食物アレルギー問診票」「同意書」が提出され、アレルギー対応が必要な児童生徒（様式5・6）

### ◆ 内容

- ・学校での留意点は、学校生活の様々な場面を想定し、アレルギー対応委員会で取組の検討や具体的な準備を実施する。
- ・緊急時に備えた処方薬、配慮や管理事項は、管理指導表を参照し、記入する。
- ・緊急時の対応については、「アレルギー緊急時個別対応カード（様式7）」を作成する。

### ◆ 個別支援プランの作成に必要な書類

- ・主治医及び保護者への依頼文書（様式2-1・2-2）
- ・学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）（様式3-1または3-2）
- ・食物アレルギー問診票（様式3-3）

## 食物アレルギーに関する面談のポイント

### ◆ 診断と重症度の確認

- ・「学校生活管理指導表」に基づき、原因食物と除去根拠を確認する。
- ・過去に起こったアレルギー症状を具体的に把握する。アナフィラキシーとアナフィラキシーショックの既往歴のある児童生徒については、重点的に具体策を立てる。

### ◆ 主治医による診断のみ対応可能

- ・保護者の不安や児童生徒の嗜好と、食物アレルギーを区別し、学校給食で対応が可能なものは主治医が診断した食物アレルギーのみであることを説明する。
- ・医師の診断がないにも関わらず、保護者が対応を希望した場合、主治医が診断した食物アレルギーについてのみ対応できることを再度説明する。

◆ 緊急時の対応の確認

- 処方薬がある場合、保管方法や使用するタイミングを確認し、保護者や連絡医療機関の緊急時連絡先（救急車の搬送先）を確認する。
- エピペンを所持している児童生徒の場合、より慎重に面談を行い、具体的な対応策を検討する。